

「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	関市		学校名	関市立津保川中学校		
校長名	安藤 智		対象学年	全校	人数	70人
項 目 該当する項目1つ 以上に○を付ける	○	① 小・中学校の関連性や発展性を踏まえた実践や、幼稚園、高等学校、特別支援学校等と連携を図った実践				
	○	② 県内施設や地域人材等の外部資源を活用し、岐阜県が誇る自然・歴史・文化・産業等の体験を通して学ぶ取組を効果的に位置付けた実践				
	○	③ ふるさと学習を核として、総合的な学習の時間と各教科、特別の教科道徳等との関連を図った教育課程を編成し取り組んだ実践				
学校の教育目標	明日を拓く たくましさ ～聡明 創造 爽快～					
活動のねらい	「地域に誇りや愛着をもち、自ら明日を切り拓く」をテーマに学習する「夢活」を通して、地域理解を深めるとともに、地域を支え、活性化させていけるような資質・能力を育成する。					

〔活動の特色〕

本校のある津保川地域は、森林や津保川のある豊かな自然にあふれた場所である。しかし、在籍生徒数は減少傾向にあり、地域の活性化についても喫緊の課題となっている。そこで、地域を知り、地域から学び、地域の課題を自分のこととして考え、地域のために行動し、自己の生き方の決定につなげていけるような3つの学習を柱に「夢活」（総合的な学習の時間）として活動を行ってきた。「夢活」を通して、地域を深く知り、ふるさとに誇りや愛着をもつとともに、自分の進路や地域の未来について考え、行動しようとする生徒の育成を目指している。

〔活動の概要〕

1 地域を知るふるさと学習

○テーマ：自然・文化・歴史という視点でふるさとを知る。

○活動の特徴：「夢活」で、「自然」「文化」「歴史」の視点で津保川地域の取材や調査を行った。「自然」活動では、地域の武儀林業育成指導委員会や中濃森林組合、中濃農林事務所の方から学んだ森林に関わる体験や津保川漁業協同組合の方から学ぶ鮎釣り体験を通して、自然に関わる仕事や取組を知り、自然と地域が深くつながっていることに気づき、「自然」との共生について考えることができた。「文化」活動では、校区の企業や公共施設への取材を通して、地域の「文化」について知り、特産品を生かしたり、よりよい生活を送ることができるように工夫されていたりすることを学ぶことができた。「歴史」活動では、地域の歴史ある寺社や伝説の残っている史跡などを取材し、地域で大切にされてきた伝統や伝承を知り、後世に伝えていきたいことを考えることができた。



＜特産品のインタビュー(文化)＞



＜津保川鮎釣り体験(自然)＞



＜森林教室(自然)＞



＜円空仏の取材(歴史)＞

→地域を知ることを通して、恵まれた自然の恩恵・地域で大切にされてきた思い・豊かに過ごす工夫について考えることができた。

2 地域の人から学ぶふるさと学習

○テーマ：ふるさとで活躍している人の生き方に触れ、自分のできることを考える。

○活動の特徴：津保川地域で活躍している方から思いや願いを聞いたり、地域の職場で体験したりすることで、地域を支え、活性化するためにできることを考えた。他にも教科等横断的な視点に立ち、教科や道徳などの授業でも地域で活動している方の話を聞いて考えを深めていくことができるようにしている。また、地域の健全育成協議会の方と一緒に挨拶運動を行うなどして、地域と共に地域を元気にする活動も行った。ふるさとの魅力を引き出し、よりよい地域をつくっていくために、人と関わり、思いや願いをもって行動へとつなげていけるようにしている。地域の人から学ぶ学習を通して、ふるさとの未来に向けて取り組んでいきたいという願いをもつことができた。



＜地域の方から学ぶ職業講話＞

＜地域で職場体験＞

＜地域の伝統を考える道徳＞

＜地域の方と一緒に挨拶活動＞

→地域で暮らし、働く人々のことを知り、交流することで、ふるさとの一員としての自覚と誇りをもつ機会となり、ふるさとの担い手として自分ができていることを考えた。

3 地域に発信するふるさと学習

○テーマ：願いをもって、中学生として地域づくりに参画する。

○活動の特徴：地域づくりに参画する活動として特産品を考え、実際に生産・利用まで行うことを通して、ふるさとをどのように活性化していくか考えた。考える際に、地域まちおこし協力隊の方と一緒に、スーパーフード「キヌア」の栽培を行い、活用の仕方を考えた。他にも、NPO 日本平成村の方と一緒に、地域を活性化させるためにどうしていくかを話し合う「がやがや会議」を行ったり、地域行事の運営などに主体的に参加し、実際に地域を盛り上げる経験を積んだりした。「夢活」を通して学んできたことや、考えてきたことを発信する場として「武儀・上之保のつどい」を運営し、地域や校区の小学校と一緒に自分たちの成長を支え、助けてくれた地域へ感謝の気持ちを伝えた。



＜地域の方と特産品を考える＞

＜地域行事の運営に携わる＞

＜地域の方とふるさとを考える＞

＜地域の方に発信する＞

→「夢活」の取組を通して、ふるさとを過ごしやすくする方法や自分ができていることを考え、地域行事にも主体的にボランティアとして参加するなど、学校外での実践につなげていくことができた。

【生徒の変容】

「夢活」を系統的に学んでいくことで、地域の課題を自分のこととして考え、地域のための行動につなげていけるようになった。また、地域の人たちと一緒に地域のことを考えて活動する中で、地域の情報を収集し、自己の生き方につながるよう考えや意見をまとめることができた。今後も積極的に社会に参画しよう生徒を育てていきたい。

＜武儀・上之保のつどいの生徒の振り返り＞

地域の方や小学校と一緒に、感謝の気持ちを伝え合ったり、ふるさとについて学んだことを発信したりして、地域が一体となれる場をつくっていきました。これからも自分たちで考えて地域を元気にしていきたいです。